



ロケーション認識の設定

- [場所の認識の概要](#) (1 ページ)
- [場所の認識の前提条件](#) (4 ページ)
- [ロケーション認識の設定タスク フロー](#) (4 ページ)
- [場所の認識制限](#) (9 ページ)

場所の認識の概要



重要 ロケーション認識に対する Meraki アクセスポイントのサポートは、リリース 12.5(1)SU6 以降およびリリース 14SU1 以降にのみ適用されます。

ロケーション認識によって、管理者は企業ネットワークに接続している電話の接続元となる物理的な場所を決定できます。ワイヤレスネットワークの場合は、ワイヤレスアクセスポイントインフラストラクチャと、それらのアクセスポイントに現在関連付けられているモバイルデバイスを表示できます。有線ネットワークの場合は、イーサネット スイッチ インフラストラクチャを表示して、どのデバイスが現在それらのスイッチに接続しているか確認できます。これにより、コールが配置された建物、階、およびキューブを特定できます。

ネットワーク インフラストラクチャは、**Cisco Unified CM Administration > Advanced Features > Device Location Tracking Services > Switches and Access Points > Find and List Switches and Access Points** ウィンドウから表示できます。

この機能は、Unified Communications Manager データベースを次の情報を使用して動的に更新します。

- 各インフラストラクチャデバイスの、IP アドレス、BSSID 情報 (該当する場合) を含むスイッチや、ワイヤレスアクセスポイントなどのネットワークインフラストラクチャデバイス
- 各インフラストラクチャデバイスに関連付けられているエンドポイント (以下を含む)
 - ワイヤレスネットワークの場合は、ワイヤレスアクセスポイントに現在関連付けられているデバイスのリスト。

- 有線ネットワークの場合は、イーサネットスイッチに現在接続されているデバイスとデバイスタイプのリストが表示されます。

Cisco Emergency Responder 統合

場所の認識により、Cisco Emergency Responder などの統合アプリケーションが、緊急コールを発信したユーザの物理的な場所を特定するのに役立ちます。位置認識が有効になっている場合、Cisco Emergency Responder は、新しいワイヤレスアクセスポイントに関連付けられたモバイルデバイス、または新しいイーサネットスイッチに接続されているデスク電話機との間のインフラストラクチャの関連付けに新しいデバイスを学習します。

Cisco Emergency Responder を初めて起動すると、現在のデバイスの Unified Communications Manager データベースとネットワーク インフラストラクチャの関連付けが照会されます。2分おきに、Cisco Emergency Responder は、既存の関連付けが更新されていないかどうかを確認します。そのため、モバイルの発信者が移動中に緊急コールを受信した場合でも、Cisco Emergency Responder は、発信者の物理的な場所を迅速に判断し、適切な建物、階、またはキューブに緊急サービスを送信できます。

ワイヤレスネットワークの更新

ワイヤレスインフラストラクチャのロケーション認識を有効にするには、Unified Communications Manager で、Cisco Wireless LAN コントローラと同期するように設定します。Unified Communications Manager と最大 50 台のコントローラを同期できます。同期プロセス中に、Unified Communications Manager は、そのコントローラが管理しているアクセスポイントインフラストラクチャでデータベースを更新します。Cisco Unified CM 管理者は、各アクセスポイントに関連付けられているモバイルクライアントのリストを含む、ワイヤレスアクセスポイントのステータスを表示できます。

モバイルクライアントがアクセスポイント間を移動すると、エンドポイントからの SIP および SCCP シグナリングが、新しいデバイスとアクセスポイントの関連付けを Unified Communications Manager に伝達し、Unified Communications Manager がデータベースを更新します。また、Cisco Emergency Responder は、新しいエンドポイントが関連付けを変更したときに数分ごとに Unified Communications Manager データベースに照会することによって、新しい関連付けについて学習します。そのため、モバイルクライアントが緊急コールを発信すると、Cisco Emergency Responder は、そのコールを配置したユーザの物理的な場所に関する正確な情報を保持します。

ワイヤレスアクセスポイントコントローラの定期的な同期スケジュールがある場合、Unified Communications Manager は、各同期の後にデータベースからのアクセスポイントを動的に追加または更新します。

バルク管理を使用してアクセスポイントを挿入する

サードパーティ製のワイヤレスアクセスポイントコントローラを使用している場合、またはシスコの主要インフラストラクチャからアクセスポイントをエクスポートする場合は、一括管理ツールを使用して、CSV ファイルからのワイヤレスアクセスポイントインフラストラク

チャを Unified Communications Manager データベースに一括挿入することができます。一括挿入後、モバイルデバイスから次の場所を更新すると、現在のアクセスポイントの関連付けによってデータベースが更新されます。

ただし、一括管理では、新しいアクセスポイントがワイヤレスネットワークに追加されたときにアクセスポイントインフラストラクチャを動的に更新することはできません。モバイルコールが、一括挿入後に追加されたアクセスポイントを使用して配置された場合、そのアクセスポイントはデータベース内のレコードを持たないため、Unified Communications Manager は新しいアクセスポイントの BSSID と一致しなくても、インフラストラクチャをマークすることになります。ワイヤレス デバイスの場合は、未識別 AP として使用されます。

一括管理ツールの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド』の「インフラストラクチャ デバイスの管理」の章を参照してください。

有線ネットワークの更新

有線インフラストラクチャについてロケーション認識を有効にするために何も設定する必要はありません。機能は自動的に有効になります。

有線電話を登録する際、電話機と Cisco Unified Communications Manager の間のシグナリングによって、スイッチインフラストラクチャでデータベースが動的に更新されます。Cisco Unified CM Administration での会社のスイッチインフラストラクチャに関する詳細を、特定のスイッチに接続されている電話機のリストも含め表示できます。

モバイルデバイスと異なり、有線デバイスは、通常、1つのスイッチから別のスイッチにローミングしません。会社内で従業員が席を替わったときなどに起こり得る、電話機が移動しない場合は、電話機が新しいロケーションから再登録されると、新しいスイッチ情報でデータベースが更新されます。Cisco Unified Communications Manager で、新しいスイッチは移動された電話を接続されたエンドポイントとして表示されます。

スイッチが廃止され、ネットワークインフラストラクチャから削除される場合、そのスイッチは、Cisco Unified Communications Manager 内で見えたままです。インフラストラクチャのビューから古いスイッチを削除するには、[アクセスポイントとスイッチの設定 (Access Point and Switch Configuration)] ウィンドウで非アクティブ化する必要があります。

ロケーション認識をサポートするエンドポイント

次のエンドポイントは、位置認識によるトラッキングをサポートしています。

- Cisco Unified Wireless IP Phone 7925G
- Cisco Unified Wireless IP Phone 7921G-EX
- Cisco Unified Wireless IP Phone 7926G
- Cisco Jabber クライアント: 12.5 (1) SU1 でサポートされています。
- Cisco Wireless IP Phone 8821 : 12.5(1)SU1 でサポート
- Webex アプリ : 12.5(1)SU1 でサポート

これらのエンドポイントは、BSSID などの上流のインフラストラクチャ情報を、Cisco Unified Communications Manager に提供します。Cisco Emergency Responder は、AXL の変更通知を介して、関連付けられたアクセスポイントを使用してデバイスを追跡できます。

デバイスのトラッキングを動作させるには、ワイヤレスアクセスポイントを Cisco Unified Communications Manager で定義する必要があります。これを行うには、ワイヤレスアクセスポイントコントローラを同期するか、または一括管理を使用してワイヤレスアクセスポイントインフラストラクチャをインポートします。

場所の認識の前提条件

この機能を使用すると、複数の Cisco Wireless LAN コントローラを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースを同期することができます。また、Cisco Wireless LAN Controller ハードウェア、およびアクセスポイントのインフラストラクチャもセットアップする必要があります。詳細については、コントローラのドキュメンテーションを参照してください。

ロケーション認識の設定タスク フロー

Cisco Unified Communications Manager でロケーション認識をセットアップするには、次のタスクを実行します。

始める前に

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | ワイヤレスインフラストラクチャの同期のためのサービスの開始 (5 ページ) | Cisco Unified Serviceability で、ロケーション認識機能をサポートするサービスを開始します。 |
| ステップ 2 | ワイヤレス アクセス ポイント コントローラの設定 (5 ページ) | データベースとワイヤレス アクセス ポイント コントローラを同期します。同期すると、無線インフラストラクチャがデータベースにインポートされます。 ヒント 自動更新の同期スケジュールをセットアップします。 |
| ステップ 3 | インフラストラクチャ デバイスの挿入 (6 ページ) | (省略可) Cisco Prime Infrastructure の無線インフラストラクチャを追加するか、またはサードパーティのワイヤレス LAN コントローラを使用している場合は、一 |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| | | 括管理を使用して、CSVファイルでデータベースを更新します。 (注) このメソッドを使用して、自動更新をセットアップすることはできません。 |
| ステップ 4 | インフラストラクチャ デバイス トラッキングの非アクティブ化 (8 ページ) | (省略可) 同期内容に追跡を望まないアクセスポイントが含まれている場合 (たとえば同期することでラボのアクセスポイントが制御される場合) は、アクセスポイントを非アクティブにできるため、Cisco Unified Communications Manager がアクセスポイントの更新を追跡することはありません。 |

ワイヤレスインフラストラクチャの同期のためのサービスの開始

場所認識機能をサポートするために、Cisco Wireless LAN コントローラとの同期をサポートするサービスを開始するには、次の手順を使用します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability にログインして、[ツール (Tools)] > [サービスの開始 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストからパブリッシャ ノードを選択します。
- ステップ 3 次のサービスがオンになっていることを確認します。
 - Cisco CallManager
 - Cisco AXL Web Service
 - Cisco Wireless Controller Synchronization サービス
- ステップ 4 (省略可) 一括管理を使用して CSV ファイルからネットワーク インフラストラクチャをインポートする場合、[一括プロビジョニング サービス (Bulk Provisioning Service)] がオンになっていることを確認します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

ワイヤレス アクセス ポイント コントローラの設定

次の手順を使用して、データベースを Cisco ワイヤレスアクセスポイントコントローラと同期します。同期プロセス中に、Unified Communications Manager は、そのコントローラが管理して

いるアクセスポイント インフラストラクチャでデータベースを更新します。最大で 50 のワイヤレスアクセスポイントコントローラを追加できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[詳細機能 (Advanced Features)] > [デバイスの位置のトラッキング サービス (Device Location Tracking Services)] > [ワイヤレス アクセスポイント] を選択します。
- ステップ 2 設定するコントローラを選択します。
 - [検索 (Find)] をクリックして、既存のコントローラを編集するコントローラを選択します。
 - 新しいコントローラを設定するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 名前 フィールドに、コントローラの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- ステップ 4 コントローラの説明を入力します。
- ステップ 5 次の手順を実行して、コントローラへの SNMP メッセージに使用される SNMP 設定を行います。
 - a) [SNMPバージョン (SNMP Version)] ドロップダウン リストから、コントローラで使用する SNMP バージョンプロトコルを選択します。
 - b) 残りの SNMP 認証フィールドに入力します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
 - c) [SNMP設定のテスト (Test SNMP Settings)] をクリックし、入力した SNMP 設定が有効であることを確認します。
- ステップ 6 スケジュールされた同期を設定して、データベースを定期的に更新する場合は、次のようにします。
 - a) [スケジュール同期を有効にしてインフラストラクチャ デバイスを検出する (Enable scheduled synchronization to discover Infrastructure Devices)] をチェックします。
 - b) [すべての再同期を実行してください] フィールドで、同期スケジュールを作成します。
- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8 (任意) データベースをすぐに更新するには、[同期 (Synchronize)] をクリックします。

(省略可) 同期によって、管理する必要のないアクセスポイント (たとえば、使用中でないラボ機器やアクセスポイント) がプルされた場合、そのアクセスポイントをトラッキングから削除できます。

インフラストラクチャ デバイスの挿入

次の手順を使用して、CSV ファイルから Unified Communications Manager データベースにワイヤレス アクセス ポイント インフラストラクチャを一括インポートします。この手順を使用して、Cisco Prime Infrastructure からエクスポートされた CSV ファイルをインポートしたり、ま

またはサードパーティワイヤレスアクセスポイントコントローラからアクセスポイントをインポートしたりできます。

始める前に

次に列挙する列を含む、カンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが必要です。

- アクセスポイントまたはスイッチ名
- IPv4 アドレス
- IPv6 アドレス
- BSSID : ワイヤレスアクセスプロトコル (WAP) インフラストラクチャデバイスの場合に必要
- 説明 : 場所識別子、スイッチタイプと場所の組み合わせ、または他の意味のある識別子



(注) IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を定義することも、どちらか一方だけを定義することもできます。



(注) BSSID 値に関しては、アクセスポイントを一意に識別する、0 で終わる BSSID マスクを入力します (アクセスポイント上の個々のチャンネルの BSSID とは異なります)。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [インフラストラクチャ デバイス (Infrastructure Device)] > [インフラストラクチャ デバイスの挿入 (Insert Infrastructure Device)] の順に選択します。
[インフラストラクチャデバイス設定の挿入 (Insert Infrastructure Device Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。

ステップ 3 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

デフォルトの説明は、[インフラストラクチャデバイスの挿入 (Insert Infrastructure Device)] です。

ステップ 4 ジョブを実行するタイミングを次のように選択します。

- すぐにジョブを実行する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオ ボタンを選択します。
- 後でジョブを実行する場合は、[後で実行 (Run Later)] ラジオ ボタンを選択します。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

すぐにジョブを実行するように選択した場合は、ジョブが実行されます。

ステップ 6 後でジョブを実行するように選択した場合は、ジョブを実行するタイミングをスケジュールします。

- a) [一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] を選択します。
- b) [検索 (Find)] をクリックして、さきほど作成したジョブを選択します。
- c) [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、ジョブを実行するタイミングをスケジュールします。
- d) [保存 (Save)] をクリックします。
スケジュールされた時刻に、ジョブが実行されます。

インフラストラクチャ デバイス トラッキングの非アクティブ化

同期に、トラッキングする必要のないアクセスポイントまたはスイッチが含まれている場合 (たとえば、使用されていないラボ機器またはアクセスポイントで同期をプルする場合は)、アクセスポイントを非アクティブ化したり、追跡から切り替えたりすることができます。このアクセスポイントまたはスイッチのステータスは、Unified Communications Manager によって更新されません。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[詳細機能 (Advanced Features)] > [デバイスの位置のトラッキングサービス (Device Location Tracking Services)] > [スイッチとアクセスポイント (Switches and Access Points)] を選択します。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、追跡を停止するスイッチまたはアクセスポイントを選択します。

ステップ 3 [選択項目の非アクティブ化 (Deactivate Selected)] をクリックします。

関連資料

システムの設定が完了し、システムが稼動している場合は、次の章のタスクを使用して、インフラストラクチャを継続的に管理することができます。

詳細については、『[Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Service](#)』の「インフラストラクチャの管理」を参照してください。

場所の認識制限

| 機能 | 連携動作と制限事項 |
|-----------------|---|
| Meraki アクセスポイント | ロケーション認識機能は、Meraki アクセスポイントをサポートしていません。 |

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。